

令和元年度 小規模多機能型居宅介護 「サービス評価」 総括表

くろさき小規模多機能ホーム 野崎幸紀

法人名	社会福祉法人 普代福祉会	代表者	大上 重信	法人・事業所の 特徴	・普代村の黒崎地区に立地し、旧小学校の一部を改装して開所した小規模な施設です、地域の方々との距離は近く、訪問・面会・差し入れ等も多く利用者様との馴染みも出ています。 ・施設理念である「あなたの笑顔のお手伝い」をモットーに職員一丸となってお世話させていただきます。					
事業所名	くろさき小規模多機能ホーム	管理者	野崎 幸紀							
出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	2 人	5 人	0 人	1 人	2 人	0 人	4 人	0 人	15 人
項目	前回の改善計画			前回の改善計画に対する取り組み・結果			意見		今回の改善計画	
A. 事業所自己評価の確認	・各担当ごとに利用者の情報を再アセスメントし、ケアプランの見直しを行い、ケアプランを全スタッフへ回覧しいつでも確認できるようにする。			・ケアプランについては、いつでも確認できるような場所においてあり、モニタリング等見直しできるようにしていた。しかし、利用者の再アセスメントまでには至らず、より深い情報収集ができなかった。また、新規利用者に対してのアセスメントも情報不足の部分が多かった。アセスメントの仕方を工夫することが必要と思われた。			・会議等で意見交換しながら取り組んだが、職員間の情報共有が不十分であり、一つのチームになっていなかった。 ・事業所内での活動や利用者、家族等との関わりについてはある程度達成できたが、社会資源の活用や地域住民との交流など、外部に対しての働きかけは少なかった。		・職員同士が積極的にコミュニケーションをとることで、情報の共有に努める。	
B. 事業所のしつらえ・環境	・地域の住民の皆さんと一緒にできる環境整備の計画を考え実施する。			・地域の環境整備、特に新しくなった(5月落成)黒崎地域活動拠点施設やホーム周辺の環境整備について考え実施する予定であったが、地域との調整がつかず環境整備ができなかった。			・介護保険での利用以外に、いつでもだれでも地域の方が事業所に来て交流できるように普及啓発してみたらどうでしょうか？例えば「憩いの場」「サロン」など。 ・会議の時しか来ていないので、深く分からないところがあります。		・黒崎地区で実施している清掃活動の予定を確認し、参加する。	
C. 事業所と地域のかかわり	・事業所の機能や役割について、理解を深められるよう関係機関、団体等へ働きかけを行う。(例えば民生児童委員定例会議への出席など)			・民生児童委員定例会議への出席はできなかった。地域ケア会議には出席でき、事業所の機能や役割について働きかけることが出来た。			・くろさき小規模多機能ホームについて、ホームは何をどのようにするところなのかというような事が地域の方に理解できていないのでは？ ・各団体等の会議への参加は、くろさき小規模の周知と実態把握に必要だと思われ、管理者は積極的に働きかけるようにした方が良いと思います。		・民生児童委員定例会議や黒崎地区自治会会議へ参加させていただき、事業所のPR活動を行う。(地域ケア会議への出席は継続)	

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み</p>	<p>・地域の心配な方などの事例については、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所などと連携を図りながら、必要に応じ、同行訪問させていただくなど支援に繋げるよう努める。</p>	<p>・地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と連携を図り、地域の困っている方(施設の利用希望など)への訪問を行い、支援につなげることができた。また、虐待が疑われる地域の方への訪問も、地域包括支援センターと同行し対応することができた。</p>	<p>・設問の中で分かりづらい所があります。「はい」と答えても「いいえ」と答えても取り方では同じことにとられるような感じがあります。</p>	<p>・事業所単独の広報誌(年2回発行)を活用し、地域の方へ「相談できる場所」であることを周知する。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取り組み</p>	<p>・運営推進会議での業務報告では、スライドショーなどを用いることで、より分かりやすく、イメージしやすいように工夫した情報発信に努める。</p>	<p>・会議については新しくできた地域拠点施設の広い会議室で行うことが出来たが、スライドショーなどを用いるなどの情報発信の工夫はできなかった。</p>	<p>・情報発信の工夫については、分かりやすい説明があれば、スライドショーにこだわらなくてもいいのでは、また、毎回でなくていいのではないでしょうか。</p>	<p>・利用者の日々の暮らしや事業所の取組等、運営推進会議での報告の際は写真を活用するなど、よりイメージしやすいように工夫する。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>・職員、利用者とも地区での防災訓練に参加し、住民の皆さんとともに防災についての意識啓発を図る。また、防災訓練計画を作成し、地域の方と協議し、充実した訓練になるよう検討する。</p>	<p>・7月の火災避難訓練の時は地元消防団の協力が得られた。 9月の普代村防災訓練では、うねとり荘が福祉避難所となったため、それに合わせ、くろさき小規模多機能ホームでも無線等で交信しながら災害訓練(ライフライン確保)を実施した。 11月の火災避難訓練においては夜間を想定した訓練で、初めて居室の窓から避難する訓練や救出シートでの救出訓練も行うことが出来た。</p>	<p>・来年はくろさき小規模多機能ホームも避難所としての受け入れ態勢を検討しましょう。 ・11/15の避難訓練ですが非常にスムーズに避難等が行われ良かったと消防署員からの報告がありました。 ・地域の防災訓練とは村の訓練になると思いますが、大きく言えば参加していると思います。</p>	<p>・役場の防災担当と連携し、普代村の防災訓練の際、事業所を福祉避難所として計画していただくよう事前に依頼し、それに基づいた訓練を計画、実施する。</p>